中斎塾　東京フォーラム
平成 27 年度　第 5 回講話

平成 27 年 5 月 9 日
於　湯島聖堂

ドンドコドンドコ非常に賑やかな音が聞こえています。太鼓の音を聞くと、何となく浮き立ちますね。太鼓は勇壮活発で良いですね。勇壮活発で派手にしたい時は色々な組織が全国にありますので、お安い値段で派手なイベントになるという記憶があります。

最初から余分なことを言って申し訳ないけれども、最近カラオケに行くことがありまして、「無法松の一生」を村田英雄が歌いますが、その時に村田英雄が太鼓を叩く画面が出ます。凄いなと思って調べましたら、村田英雄が叩いている太鼓は、現地には無くあれは創作ということでした。ですから何事にもよらず、ああ良いなと思ったら、本や資料でも全て原点をあたる。出典を明らかにする。これはみんな必要だなとあらためてカラオケの村田英雄「無法松の一生」を見てそう感じました。

三島中洲先生を調べて

・今回のゴールデンウィークに出かけられた方ってどれぐらいおられます？
・では出かけないで、一箇所に居て何かをしておられた方？

こっちが若干多いですね、有難うございます。私もこちらの組でございまして、赤城山に籠っておりました。前から本を書こうと思っていたのが、昨年は色々なことが重なって書けなかったので籠って書き始めました。

前から少しずつ色々調べてはいましたけれど、二松学舎を創立した三島中洲先生を書き始めました。一生を追いかけて調べたことが無かったので、自分の知らないことが、かなりあるなと思いました。

その資料や本を読んでいて収穫だったのは、酒井代表幹事が以前「女性のための論語について色々と知恵をいただきたい」と言っていたけれども、三島中洲を調べていたら明治時代の女性は、論語の勉強をかなりしていました。そして論語を活かしたという記述が残っていました。これはたいしたものだと思います。明治時代の女性が、いかに論語と向きあったか。その論語と向きあった女性達が日本の教育界にどういう業績を残したか。それを踏まえながら明治・大正・昭和・平成と繋いでくることが出来る。今回のゴールデンウィークで女性のための論語が見えました。それが良うございました。

三島中洲の評価ですが、面白い評価がありました。あの方は墓碑名というと変かな、

亡くなった後に、この方の一生はこうこうだという事を書いて残す技術に長けていました。忌憚なく言うと本人が認めています。本人が認めているものと周りの人が言ったもので、明治の三大文宗という言い方をしています。

三島中洲と渋澤栄一が仲良くなったきっかけは、渋澤栄一が亡くなった奥さんの碑を建てたいと碑文を三島中洲に依頼したら、三島中洲は渋澤栄一に事実関係を色々と問いただして書いたといいます。のちに渋澤栄一は中洲先生が碑を書いてくれると喜んだけれども、まるでその時は取り調べを受けているかのようで尋問されている感じだったといいます。ちょっと蛇足の話で頭に残っていることを言いますと、三島中洲は裁判官でした。三島中洲は裁判官として非常にスピーディーに裁判を進め、難問をどんどん解決していったそうです。本人が残した漢詩では「裁判は拙速が良い、長引かせてはいかん。聞いたらすぐに結論を出せ」と。まるで子路みたいなやり方だなと思いますけれど、すぐ結論を出している。で、多少違ったって構うことは無い。早いが良いと本人が残しているからこれは面白い。なおかつ碑を書くのも、実像が 10 あったら少し持ち上げて 14 か 15 ぐらいにプラスする。それでこの人の人生は素晴らしかったと、ただ単純に人生を羅列するのではなくて、それに物語性をつけて華やかに格好良く書く。御本人はそう書いて何が悪いと開き直ってもいます。周りの人達も、だからあの人に頼むというのがありました。

前半生は、今の岡山県で生まれて山田方谷先生について一生懸命に学び、松山藩の中で実務官僚として、今の内閣でいえば官房長官のような役割で実務処理をかなりしていた。今の官房長官は周りから叩かれていて、そろそろ首のすげ替えという話が出てきているようですが、三島中洲は首のすげ替えという話がでないで、松山藩の実務官僚を取り仕切ることができました。

後半は明治政府に仕えました。漢文の能力が非常にあったので漢文で引っ張られた人。山田方谷先生みたいに財務的な能力が素晴らしいというわけではない。どうも山田方谷を引っ張るために、三島中洲が代わりに呼ばれたなという氣配がありますけれども、明治政府から裁判官の仕事を押し付けられ一生懸命に裁判官としての仕事を果たしていました。でも途中で政府の方針が変わり、その頃の裁判官は、みな首になりました。本人は食べる糧が無くなってしまったが、何とか家族みな食わさなきゃいけないので漢文の塾をこしらえました。それで何とか賄おうということです。それで人の道を一生懸命に説いているわけです。晩年は大正天皇の漢詩の先生になりました。

表面だけを見ていると堅い人で実務家だと思いましたけれども、色々と読んでいたら明治時代もちょっと透けて見えたなということがありました。それは西郷隆盛と変わらんなという氣がしました。聞きたくないことは聞き流してください。

それは西郷隆盛をめぐる四人の女性です。一人目は台湾の女性と仲良くなっている。あの時は藩のお殿様の命令で調査しに行きました。今で言うならスパイということで、自分の必要な資料や情報を取ったら、女性に黙って日本に戻ってきた。残された女性は、

どうもきちっとした物は残っていないですが、精神に異常をきたしたようです。二人目の人は西郷隆盛が 24 歳の時に結婚をした須賀ですが、あまりの貧乏に耐えかねて出て行ってしまったとのことです。三番目の人は西郷隆盛が島流しにあった時に、愛加那という女性を現地妻にしています。どうもその時が本人にとって一番良い人生の時期だったような氣配があります。西郷隆盛と愛加那の間にできた子は、京都市の市長になったと残っています。四番目の糸子は長く西郷隆盛と連れ添いました。ということを三島中洲の資料を読んでいたら思い出しました。

三島中洲の一人目の奥さんは、産後の肥立ちが悪くて母子共に亡くなりました。すぐに二人目の奥さんは貰いましたが、子供が小さい時に亡くなってしまった。亡くなったら奥さんも追いかけるように亡くなってしまいました。三人目の奥さんとは長く続いています。

三人の女性ということで、西郷隆盛と三島中洲は似ているなと思って読んでいましたが、でも中洲は妾腹子が産まれています。お妾さんが子供を産んで、その子供をすぐ正妻が引き取って育てた。暫くすると二人目の奥さんは亡くなりましたが、お妾さんがまた次の子を産んで、三人目の奥さんが引き取って育てた。

もうひとつ付け加えておきます。明治、大正の頃に三木武吉という政治家がいました。これも有名な話ですので何回かお話しています。

三木武吉が演説をしている最中に「お前は格好いいこと色々言うけれども、何人も妾を囲っているじゃないか。どっからそんな金が出ているんだ。何故そんな偉そうな口が聞けるんだ」と野次が飛んできて、三木はそちらに向かって「今の私の周りにいる、あなたの言うお妾さんは、みな婆さんだ。婆さんだから本妻さんと同じで私に文句ばっかり言って、本当に耳は痛いし、うるさい。口やかましい婆さんが何人もいてごらん。大変だ。だけど私は全員見捨てないで一生懸命に食わせている。あんたにそういう事が出来るか」と言ったら、周りの聴衆から拍手があがった。だから感覚が今とはちょっと違います。

明治時代、権妻（ごんさい）さんは法律で認められています。権妻さんが産んだ子は庶子です。本妻さんの子供は相続する時に色々と権利が認められているが、権妻さんの子供はその次の権利が与えられている。でも今の時代は、本妻の子も権妻さんである妾腹の子も同じ権利になりましたね。時代はだいぶ進んでいると思いました。

ということで三島中洲を調べていると時代が透けて見える。男女の間も透けて見える。それから、これから先々も何となく見える。税金の動き方もちょっと見えてくる。三島中洲を通じて色々なことが見えてきました。これは昨年書こうと思ったのに書けなかったので、一氣に書きます。

一氣にとは、三島中洲に関する本を今回は 14 冊読みました。それで従来の本と違うのは、今までは直接知らない方が書いた本を読んでいましたから、息づかいとか筆づかいを自分の中に読み込むのに時間がかかります。今回は読んでいましたら、著者の人達は私の知り合いが多いことに氣づきました。

例えば、三島中洲の代表作といわれる漢詩「学を論ず」の「千秋 易えざるは　是れ 彝倫　文物典章は 世を追うて新たなり」一千年経っても変わらないものは人民・道徳であるという漢詩です。

大学で仙人のような風格を持った教授だといわれた横須賀さんという方がいますが、確かに会うと飄々としていますから面白いですけれども、書いた物を見ると「千秋 易えざるは」と書いてあります。石川忠久先生の書いた物には「千秋 易わらざるは」と書いてある。ある時代より以前の方の書いた解説は「千秋 易わらざるは　是れ 彝倫」になっています。横須賀さんは、いわゆる昭和の世代で比較的若い 70 歳ぐらい。でも比較的若い方の文章ですけれども、どこかですり替わったなという感じがしました。「易えざるは」と読む時と「易わらざるは」とでは意味が違いますから、ここらへんはちょっと面倒くさい話になるので省きますが、書いた人の顔も性格も分かるから、あの人は多分あんまりきちんと調べないで書いたなとか、かなり色々な物にあたって調べた上で書いたなとか、自分で出掛けて書いたなとか色々と感じます。

また霞ヶ浦に三島中洲の碑がありますけれども、知っている教授が書いた本を読んだら『霞浦』とあります。現地では「霞ヶ浦」と言っているのに、本のタイトルは『霞浦』です。やっぱり師匠と弟子の関係があるから、先生に読み方が違うと指摘されたら直します。こういうことが面白い。あの人は自分の主義主張を張ることより相手にある程度あわせながら主義主張を綺麗にお化粧してくるタイプですから、大体そういう性格を見ていくと、「なるほど、なるほど」と納得しながら読みますので、非常に読んでいて面白かった。やっぱり知っている人が書いた本を読むのは、楽しいし中身がスッと分かるなと思いました。

三島中洲は夏過ぎたら、本屋さんに並ぶようにします。その本を持って岡山に行こうと思います。

脱線ついでにいくつか言っておこうと思います。

・カレント 50 周年式典が今月 26 日にあります。これは猪瀬理事長と出掛けて来るつもりでおります。

『カレント』という雑誌が、衆議院議員・参議院議員全員に送っている雑誌で、初代が政治家の賀屋興宣で、二代目が木内信胤先生。今は矢野弾さんが社長です。

木内先生が「僕は小ちゃな会社の社長をやっているんだよね」と、時々嬉しそうに仰っていました。ふっと思い出したのは明徳出版社です。亡くなられた明徳出版社の小林日出夫社長は、父親に連れられて安岡正篤先生に若い時からお会いして、何を言われているか分からない頃から聞いていました。小林日出夫社長は安岡正篤先生から「出版社を作りなさい」と。それでその言い方は「私の片棒を担げ」と言われ、わけの分からない間に出版社を作らされたとあります。そこの編集室の中で安岡先生が細かなことを色々言われながら出版業務に携わったとありました。安岡正篤先生の明徳出版、『カレント』二代目社長であられた木内信胤先生。やはり自前で出版社を作っておく必要がある。

ただ、今は出版社ではなくてコンピューター、パソコンだと思います。たぶん電子書籍。皆さんスマホで電子書籍が読めるでしょう。今のスマホは字を大きくすると読めるから、段々そっちの方に入ってくるだろうなという氣がしています。

ということで、自分の書いた物を広報する手段は色々と増えました。我々は季刊誌『知足』これをさらに充実発展していきたいと思っています。

・福島新樹会の式典が 6 月 13 日にあります。次回の東京フォーラムの日ですが、フォーラムが終わったら、すぐに出かけようと思っております。

渡邉五郎三郎先生が公に出ることは、今回で終わりみたいですので。96 歳現役でよく今まで代表幹事を務めておられたと思います。五郎三郎先生は青年海外協力隊を提唱し組織し導いた人と紹介するのが一番分かりやすい。

恒例の質問

・昨日 1 日の間で「有難う」と言い、「有難う」と言われた方

良いですね、順調ですね。

・健康法を実践した方

先ほど猪瀬理事長が空氣の話をしました。何度もやっているから、ご存知の方も多いとは思います。手を叩きますから、叩いたらご一緒に深呼吸をしましょう。

・今、深呼吸で最初に息を吸った方？

はい、有難うございます。深呼吸の「呼」この字は何と読みますか。「呼」は「はく」。では「吸」。こっちは何と言うでしょう。これは「すう」ですので、ラジオ体操は最初に「大きく息を吸って」とあるでしょう、あれは間違いです。最初に小さく息をちょっと吐く。天風先生は無意識の内にフッと吐いて、それから吸えと言います。

健康法を今日実践しなかったなと思ったら、横になったままで息をちょっと吐いて吸う。その繰り返しをしているだけで、十分な健康法になります。ちょっと窓を開けておいて良い空氣が入ってくれば更に良いですね。

・夕べ寝る時に、明日を過去形でイメージして寝た方

3 人。明日を過去形でイメージすると中金持ちになるそうです。小金持ちと前は言いましたけれど、中金持ち。今、中金持ちは難しいですよ。

紹介書籍

『税高くして国滅ぶ』渡部昇一著　ワック出版

テーマ

今回のレジメで１月のテーマを見ていただくと**「人はその性格に合った事件にしか出会わない」**とあります。

これは、自分の性格にあった仕事を選ぶことになるし、事件だとか事故は偶然ということもありますけれども、でも大体は自分の好きなことを選びがちですから、やはりその性格にあった事件や事故に出あうことになろうと思います。色々な事故に出あっても、あの人らしい事故だねとなります。

例えば木内顧問が、ある看護士さんに「私が死ぬとしたら死因は何でしょうかね」とたまたま聞いたことがある。その病院には長く通っていますが、年に１回診てもらうだけのお付き合いですけれども、ふっと氣になって聞いたら、一所懸命に考えて返事が出たのは「あなたは事故死です」と、たまにしか会わない看護士さんにそう言われた。やっぱり周りは見ているんだなと思いました。御自分で自分の死に方も考えておくと良いですよ。確か 70 代の頃から木内信胤先生は 94 歳で亡くなると公言しておられました。西行法師みたいに、ぴったり 94 歳で亡くなられました。

畑中さんは、御自身の死に際はどうなるか考えていますか？畳の上で大往生ですか、それとも違う格好だと思いますか。

（畑中会員）　畳の上では死ねないね。

私もそう思ったから聞きました。意外と竹岡さんは色々な冒険しているわりに、大往生するかもしれないね。

（竹岡会員）　僕は飛行機で落ちる。

ヘリコプターで落ちるかもしれないなと、自分の死に方を考えたとき自分が事故に巻き込まれることを考えたり、病氣を考えたりする時に自分の性格を思うと、何か見えてくるということで御座います。

レジメにあります１月から４月までのテーマをひっくるめて言うと、「すべて人間社会の崩壊」これは木内信胤先生が言われていた科白です。

木内先生の言葉は、季刊誌『知足』の中に入っています。木内先生が 93～94 歳の時に言われた言葉だと思いますが、「今の近代文明の終わりは、後８年、今世紀が終わる頃には世界の常識になっているものと思う。これからは各国とも国際性をシャットアウトしないといけない。自分の食べるものを作るしかない国に対して、安い食べ物を提供しては、その国が困るし滅びると考えないといけない」

昨日、息子さんの木内顧問と話をしていて、もう近代文明が終わりである。資本主義

は終焉を向えている話は、もうごく当たり前に誰でもが話をするようになったと思いました。ということは、信胤先生が 20 数年前に言ったことが現実のことになりました。

そこで信胤先生の本を出そうと思って出版社に頼んだら断られたのですが、すごく丁寧なことを色々言っていたけれども煎じ詰めると、木内信胤先生の書かれた物は素晴らしい、御本人も素晴らしい、内容はとっても凄いけれども、いかんせん知名度がありません。知名度がある人の本を出すのは楽だけれども、知名度がないと良いことが沢山書いてあっても売れない。

大宅壮一が 1 億の国民、総白痴化。テレビが出ることによって日本人は皆馬鹿になるとありましたが、まあそういう時代でそういう本が売れますから、良い本が売れるという訳ではない。知名度が高い物が売れる。どんどん日本の国は悪くなっていっているなと感じます。ということで「信胤先生の本は、出版社から知名度がないから駄目です」と答えが返ってきましたと木内顧問に話をしたら「今日、話の中で一番ショックを受けたのは父信胤のことを日本の国の人達は知らない。知られていない」と言っていましたが「知名度はない」と言ったものを、勝手に言葉を変えて「知られていない」としてしまった。でも今は大手の出版社はみな同じです。出し方は殆ど自費出版です。自費出版の形でないと大手出版社もなかなか出せなくなってきているのが実情です。日本の出版文化はどんどん落ちている。そういう状況でございます。

今日の紹介書籍は渡部昇一さんですが、中身も面白いしテレビに出ていることによっての宣伝効果はかなりあります。

2 月のテーマ**「人間社会の崩壊（1・医療制度）」**

オバマケアを見ていけば良いと話しました。医療制度の崩壊がアメリカは始まったな、日本もそれが来るだろうということで医療制度の崩壊の話でした。

それから 3 月のテーマ**「人間社会の崩壊（2・飢餓）」**

何度も話していますが、ソ連からロシアにかわった時に 2 千万人ほどが飢え死にをした。私がロシアに調べに行って、やっぱり多くの方が亡くなっていると確認して日本に帰って、そのことを話しましたら、ペマ・ギャルポさんは、すぐ納得してくれました。ペマ・ギャルポさん御自身も中国やソ連も調べたので「貴方の言うことは本当です」と言っていただいた。昨日、木内顧問にペマ・ギャルポさん一人だけと言ったら「へー、そう」と感心していました。

これから、いわゆる後進国といわれる国が先進国と同じ物を食べたい、文化文明を更に発展させたいと拍車をかけます。そうすると飢え死にする国があちらこちら出てくる。先進諸国でも飢え死にが出てくるでしょうし、その国の中でも二極分化がどんどん進むから駄目になる。飢餓はこれから進む。したがって日本の国が飢餓社会に入りつつあると分かった時はサツマイモを作って少なくても中斎塾フォーラムに関係する方々は生き延びられるようにしたい。ソ連がロシアになった時には、ジャガイモを作って生き延び

た人達がロシアは多かったようです。

4 月のテーマ**「人間社会の崩壊（3・金融危機）」**

大雑把に喋りますと、キリスト教の教会が税金は 10%と大昔は言っていた。それを途中で金利を認めるようにキリスト教の教会がしてから資本主義が始まっている。でも今の資本主義社会は、金利をもう認めない状況に各国なってきていますから、もう金利が金利として機能しなくなってきて、最後のあがきに入っていると思います。ですからお金の仕組みが、もう崩壊をするという金融危機の話です。

今回のテーマ**「民主主義失格（4・重税国家）」**

これは先程の渡部昇一さんでいえば、キリスト教の教会が税金を認めた時に大昔は 1 割で、孔子の時代の東洋も 1 割でした。民が 6 割、公が 4 割、4 割の税金を取ったらその国は危なくなる。分岐点は 6・4 です。それで日本の歴史を見ますと、山田方谷や木内信胤先生、渡部昇一さんの言い方もそうですが税金を多く取る国は悪い国。

高い税金は良くない。税金は安ければ安いに越したことはない。木内先生の科白で国民が困り、経済が疲弊したら減税しかない。「増税は国を滅ぼす」と明快に言い切っておられます。これは日本の歴史を調べると色々な方がそう言っています。

今年から日本は、さらに重税国家に進んでいます。だから今の国は酷い。所得税が 45%、最高税率 45%、住民税が 10%ですから、お金を持っている人達は 55%取られる。他にも消費税など色々と全部ひっくるめて考えれば、実感としては 6 割です。お上が 6 割懐に手を突っ込んで持っていく時代です。稼いだのは 4 割しか残らない。だから金持ちは逃げるに決まっているということがごく当たり前の動きです。ということで重税国家の説明をしましたから、このテーマを頭の中に置きながら、今日の論語の「葉公 孔子に語げて曰く」を申し上げます。

論語の視点（子路第十三　18～19）

【一八】葉公　孔子に語げて曰く、吾が党に直躬という者有り。其の父　羊を攘みて、子　之を証すと。孔子曰く、吾が党の直き者は是に異なり、父は子の為に隠し、子は父の為に隠す。直きこと其の中に在りと。

孔子は 61 歳、この時代の 61 歳は年寄りですね。

葉公が語るには、私の所には正直者の直躬という人間がいる。その父親が羊を盗みだしたら、息子の直躬が密告をする。これは実に正直者だと孔子に言った。孔子が言うに

は、私の所の正直者は貴方の言うものとは違う。父親は子が何か悪さをしたら隠すし、子は父のために隠す。それが正直者としては本物だと。

この頃から密告制度は、よくないという話があります。国民党の時代もやはりこれと同じことを指導していました。今もまた始まり出した。怖い話ですねと、論語は今の時代に置きかえて読むのがよい、正しいとは言いませんが、よいでしょう。

日本はそれからいくと今のアベノミクス。昨日、木内顧問と一致したのは、日本の外側は金箔だが中身は腐ってきている。あちこち爛れて、それこそ片足切断しなければいけない状況が目の前にきている。それなのに金箔を一生懸命に張って体中を金ピカに見せているのがアベノミクス。その内、金箔が剥がれると腐ってきて、みな爛れて落ちる。今はそういう状況下寸前だという話で意見が一致しました。でも日本人は何故それが分からんのでしょう。我々の友人は皆、外国に行って日本の動きを調べている。日本の国の中にいると本物の情報が全然伝わってこない。何で日本はこんな酷い国になったんだろう。メディアもアベノミクスを持ち上げるけれども、ちょっとでも悪さしようと話しをしたら叩かれて皆止められてしまう。私は「今の日本は大政翼賛会ですな」と言ったらご年配の方は分かるから「そうですね」という話になりました。だから論語を見る時は、今の時代に必ず置きかえて見なければいけません。

【一九】樊遲（はんち）　仁（じん）を問（と）う。子曰（しいわ）く、居処（きょしょ）　恭（うやうや）しく、事（こと）を執（と）りて敬（つつし）み、人（ひと）と忠（ちゅう）なるは、夷狄（いてき）に之（ゆ）くと雖（いえど）も棄（す）つべからざるなりと。

樊遲が仁について聞いた。孔子が答えるのには偉ぶらない。

今、北関東フォーラムで佐藤一斎の『重職心得箇条』を講義していますが、話をする時に足を組んで座って話を聞いている人がいる。外国のテレビドラマでは、こういう姿勢は結構いますね。日本ではあまり見かけません。『重職心得箇条』の科白で説明をすると背筋をピンと伸ばすようになります。

「居処恭しく」北関東フォーラムでは、座ったら背筋を伸ばしなさい。足は投げ出さないできちんと曲げておきなさい。言葉づかいは氣をつけて重々しい言葉づかいで言ってください。嘘をついてはいけません。軽く「はい分かりました」と言ってはいけません。よく考えて分かったら「分かった」と言って下さい。

言葉づかいに一つ一つ注文をつけるし、動作態度にも注文をつける。歩く時も実際に歩いてもらって、人によっては下を向いて歩きます。下を向いているとパワーが出ませんので駄目。

さっき素読の時に「前を向いてください」と言いましたら、皆さんちょっと上向きに

なりました。前を見るということは、「未来を見てください」という意味です。「将来や未来を見る」と言うと、何となく皆さん前を見る。何も説明しなくても「未来を見てください」と言うと、空を見る。さあ、これから何かしようと言う時には真正面と上ということを北関東フォーラムで話をします。**「居処恭しく」**という説明はそういうことです。**「事を執りて敬み」**仕事をする時は一生懸命にやるでしょ。怠けないですよね、怠けることが敬んでいないから、仕事を一生懸命にやっていることを想像すれば大体当たりだと思います。

「人と忠なるは」これはもう中斎塾フォーラムの恒例の質問「嘘はつかない」です。それは信頼を持たれるということです。

「夷狄に之くと雖も棄つべからざるなりと」礼儀がないと思っている国へ行っても、物の考え方、行動は捨ててはいけない。重職心得箇条でいうと、何処に居ても誰と会っても動作・態度は重々しく、その人がその場所に来ると、何となくパッと明るくなってきて温かい氣分になる。さらに素晴らしい状況になると中村天風先生が解釈した十牛の図で最高のポジションになる。それは何だか分からないけど、その人の側に寄ると氣持ちが和んで明るくなるから側に行きたくなる。何か悪さをしようと思っていても、その側に行くと悪さをしようという氣持ちが無くなる。中江藤樹に関する逸話で、泥棒が梁の上に潜んでいたが、下で講義をしているのを聞いていたらば、思わず下りてきて改心してしまった話があります。

論語は、現代に置きかえることと、自分でこの文章は良いな、この科白は良いなというものを見つけて、それを活かしていただくのが良いでしょう。例えば他の人に「論語を勉強しているそうですね、何か良い科白は」と聞かれたら、「私の好きな論語の言葉はこれです」と言っていただけるように、ご助力いただきまして、お願いを致しまして終了です。有難うございました。